

**2011年3月期
第2四半期
決算説明資料
(2010年4月～2010年9月)**

2010年11月18日(木)

東洋合成工業株式会社

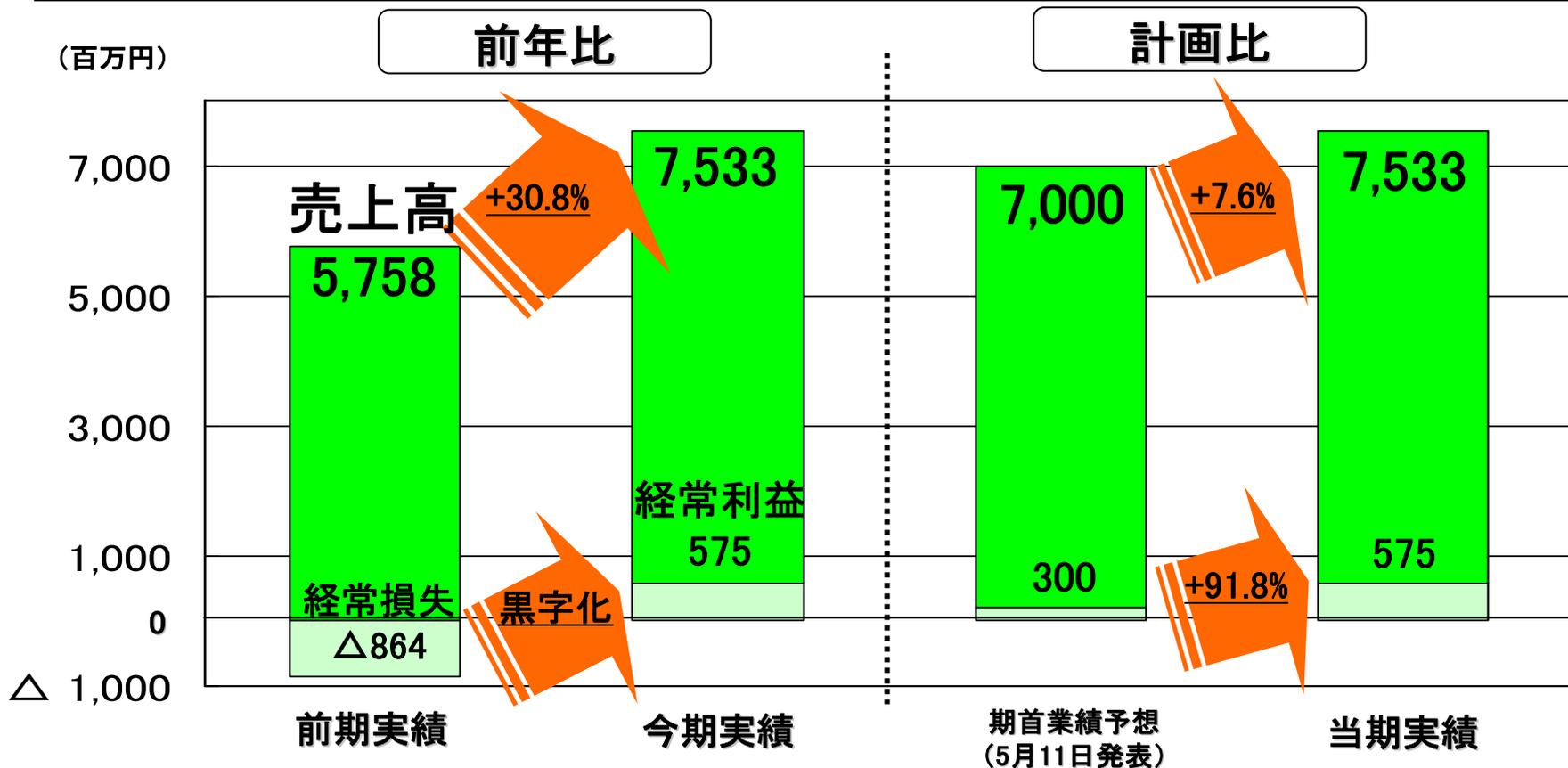
■ 目次

1. 2011年3月期 第2四半期決算概要 P 3～
2. 今後の展望 P16～

1 . 2011年3月期 第2四半期決算概要

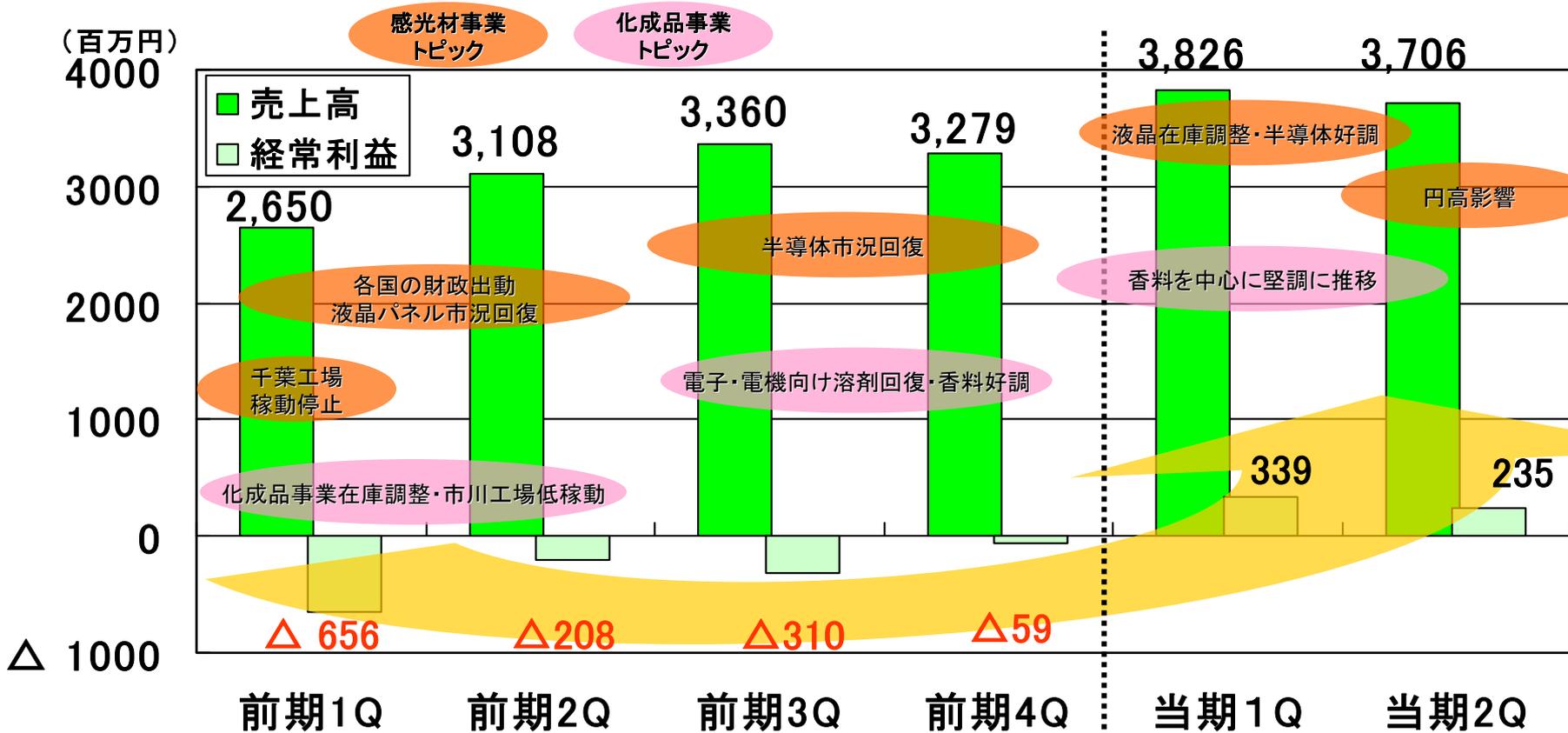
2011年3月期 第2四半期決算のポイント

- ・前期比: 売上+30.8% 経常利益は黒字化
- ・計画比: 売上+7.6% 経常利益+91.8%



■ 全社 売上・経常利益 四半期別推移

売上・・・前期1Qをボトムに、感光材事業の売上の回復が大きく寄与し、リーマンショック前のペース(年間売上150億円)まで回復。
 利益・・・感光材事業の黒字化。化成品事業の収支も改善。
 足元の受注状況は好調であるものの、急激な円高により収益悪化。



■ 2011年3月期 第2四半期決算(セグメント別P/L)

● 売上高: 感光性材料・化成品ともに増加

(感光材) 液晶・半導体向けの販売量は大幅に増加。

(化成品) 香料材料が大幅に増加。その他製品も市況の回復により売上増。

● 利益: 感光性材料は黒字化・化成品は大幅増

(感光材) 生産量の増加および高付加価値製品の販売が伸張し、収支は大幅改善。足元は円高懸念。

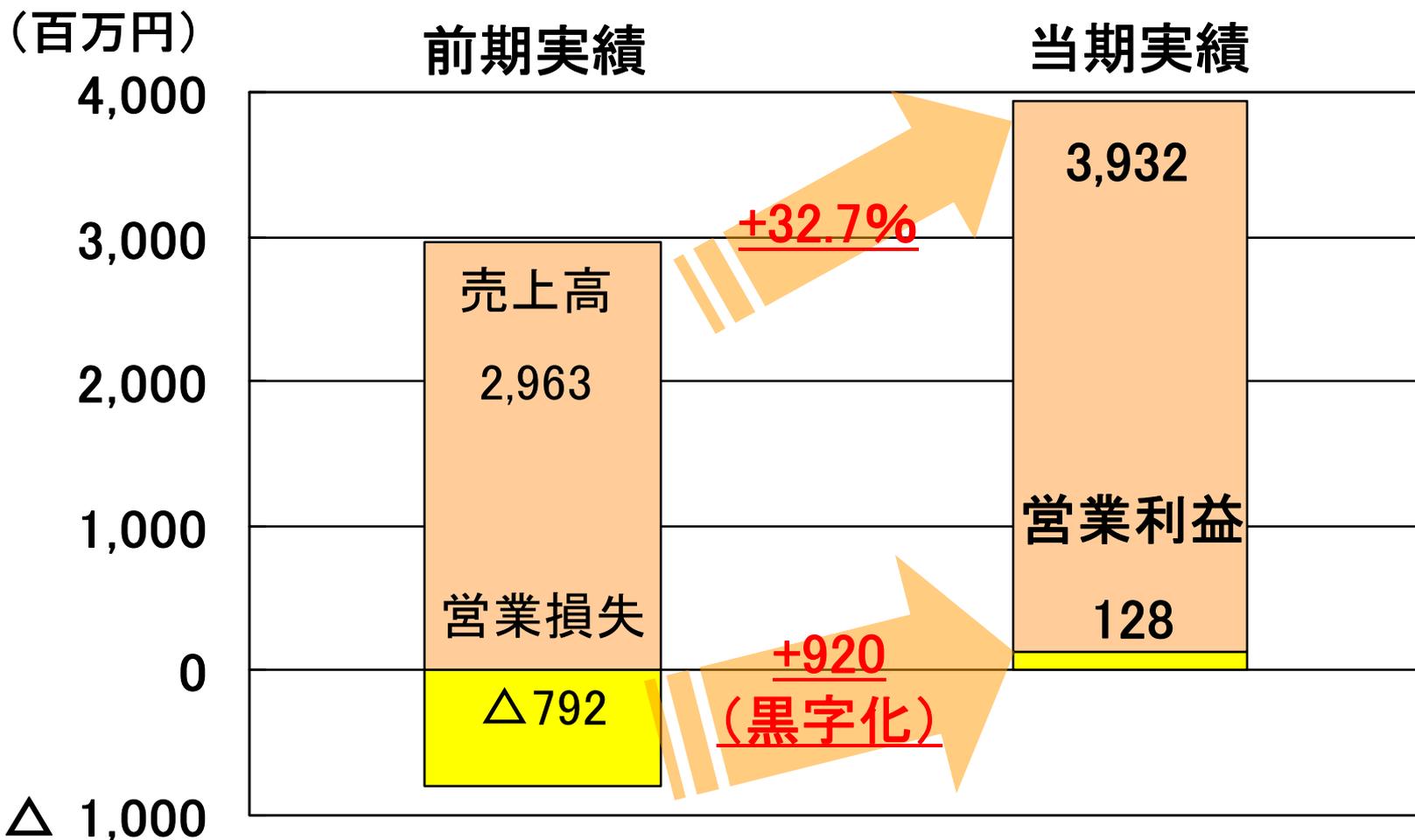
(化成品) 電機・電子業界の市況の回復、および香料材料の増加により生産量が増加し、収支改善。

| 科目 (百万円) | 2010年3月期 第2四半期決算(連結) 累計実績 | 2011年3月期 第2四半期決算(連結) 累計実績 | 増減額 | 増減率 |
|-------------|---------------------------------|---------------------------------|--------|---------|
| 売上高 | 5,758 | 7,533 | +1,775 | +30.8% |
| 感光性材料事業 | 2,963 | 3,932 | +969 | 32.7% |
| 化成品事業 | 2,795 | 3,601 | +805 | 28.8% |
| 営業利益 | △722 | 712 | +1,435 | — |
| 感光性材料事業 | △792 | 128 | +920 | — |
| 化成品事業 | 70 | 584 | +514 | +734.0% |
| 経常利益 | △864 | 575 | +1,440 | — |
| 当期純利益 | △927 | 517 | +1,444 | — |

■ 感光性材料事業 売上高・営業利益

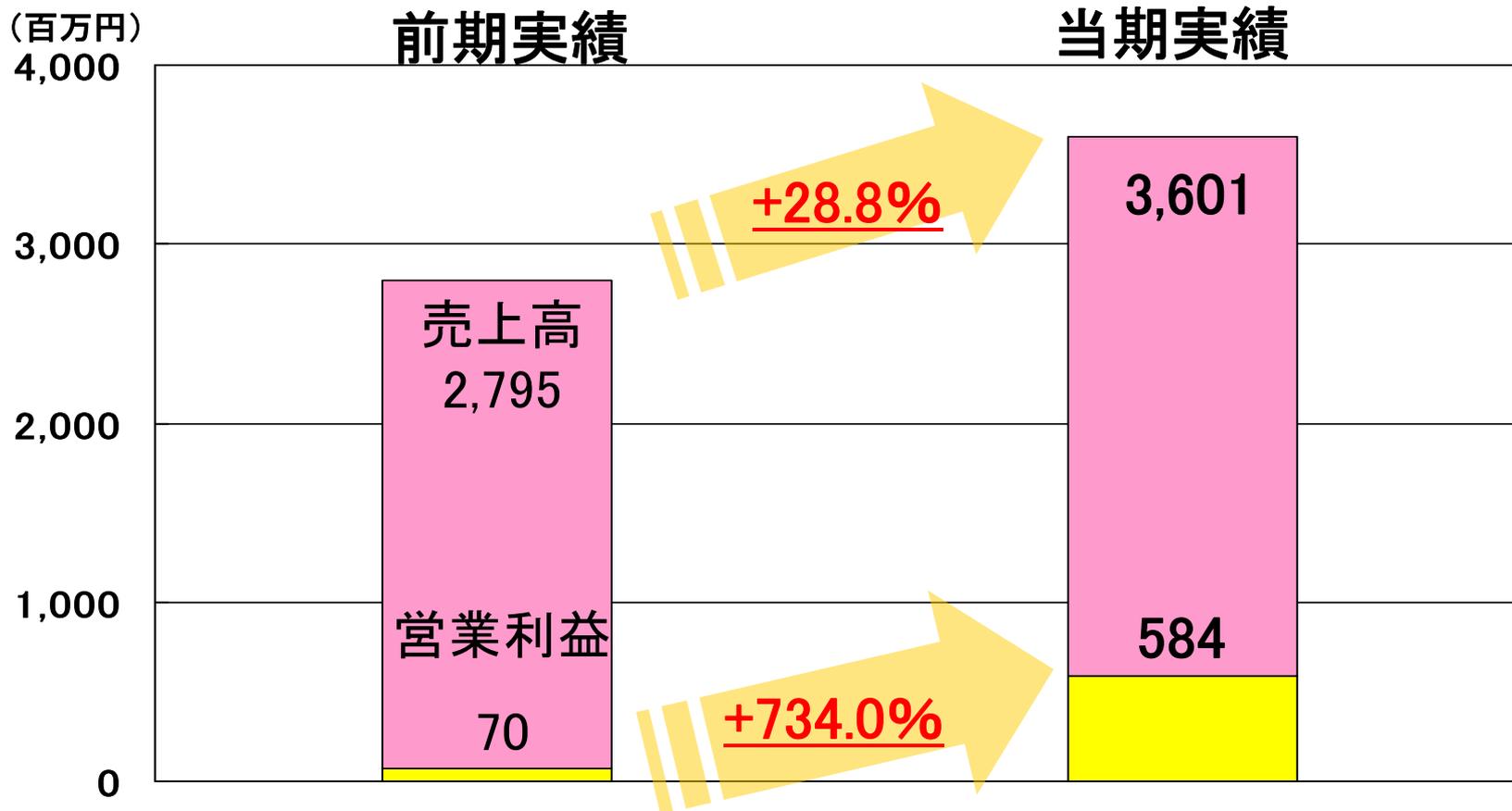
売上高は、前期比32.7%増加。営業利益は、前期比920百万円の増加。(黒字化)

- 売上高は、液晶・半導体ともに好調。販売に占める高付加価値製品 (Arレジスト材料等) の割合増加。
- 前期に比べ、生産量が増加したため、製造コストが大幅に低下。
- 足元は販売量は堅調なもの、急激な円高の影響により、収益悪化。

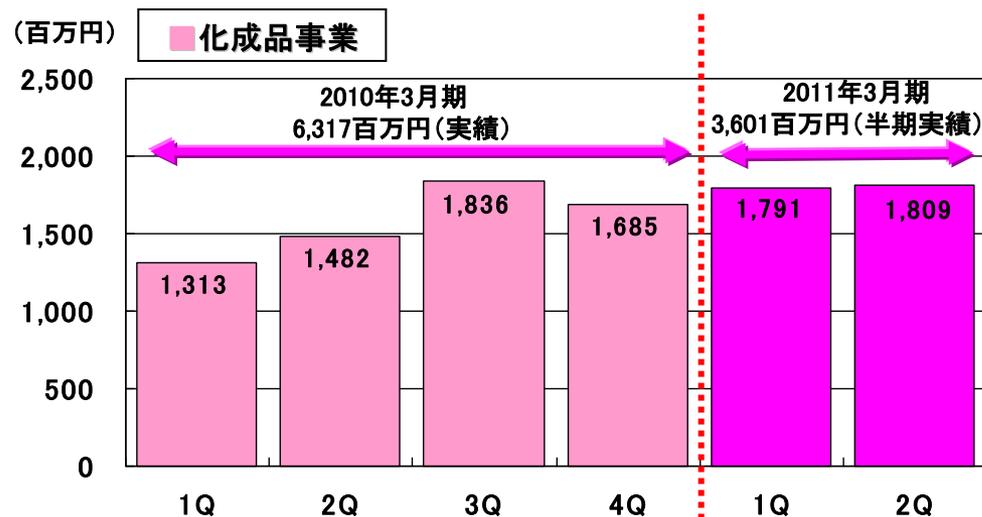
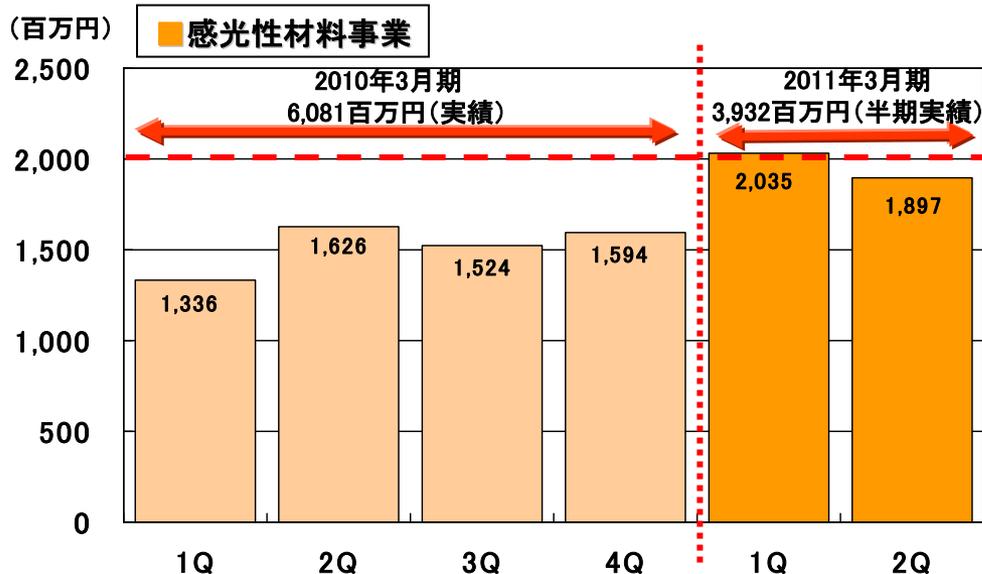


■ 化成品事業 売上高・営業利益

- ・ 売上は、前期比+28.8%の増加。営業利益は前期比+734.0%(約7倍増)
 - 香料部門、グリーンケミカル部門、ロジスティック部門 全部門において売上増加。
 - 香料部門の受注増、グリーンケミカル部門の売上回復により市川工場の生産量が増加し、利益に貢献。



■ 事業別(セグメント別) 売上高 四半期推移



【感光性材料事業】

- ✓ 1Qの売上高は20億円を超え、リーマンショック前の水準へ回復。
- ✓ 2Qは、数量ベースの受注は堅調であるものの、急激な円高により、売上・収益ともに低下。
- ✓ Arレジスト向け製品等の半導体用途の高付加価値製品は好調。

【化成品事業】

- ✓ 香料材料部門は、積極的な営業活動により前期3Qから増加基調。
- ✓ グリーンケミカル部門は、売上の相当を占める電子材料向けの売上が回復。
- ✓ ロジスティック部門は、タンクの保管契約率が高水準を維持。荷役取扱高も回復し、引き続き好調を維持。

2011年3月期 第2四半期決算 損益計算書

- ①売上・売上原価 ……売上が+30.8%に対し、売上原価は+3.4% 粗利益の大幅な改善に寄与。
 ②販売管理費 ……不況対策解除による人件費増加影響および売上増加による運賃の増加影響。
 ③営業外収益・費用 ……【収益】前期:雇用補助金受取影響【費用】前期:火災損失処理影響 借入削減による支払利息減少
 ④特別損失 ……有価証券の減損処理および資産除去債務の過年度分損失計上影響。

| 科目 (百万円) | 2010年3月期 第2四半期決算(連結) 累計実績 | 2011年3月期 第2四半期決算(連結) 累計実績 | 対前期比 | |
|---------------|---------------------------------|---------------------------------|--------|---------|
| | | | 増減額 | 増減率(%) |
| 売上高 | 5,758 | 7,533 | +1,775 | +30.8% |
| 売上原価 | 5,534 | ① 5,722 | +187 | +3.4% |
| 売上総利益(△損失) | 224 | 1,811 | +1,587 | +708.7% |
| 販売管理費 | 946 | ② 1,098 | +152 | +16.1% |
| 営業利益(△損失) | △722 | 712 | +1,435 | — |
| 営業外収益 | 78 | ③ 31 | △47 | △60.1% |
| 営業外費用 | 220 | 168 | △52 | △23.6% |
| 経常利益(△損失) | △864 | 575 | +1,440 | — |
| 特別利益 | 0 | 0 | 0 | — |
| 特別損失 | 60 | ④ 38 | △21 | △36.0% |
| 税引前当期純利益(△損失) | △925 | 536 | +1,462 | — |
| 法人税等・少数株主持分利益 | 1 | 19 | +17 | +985.7% |
| 当期純利益(△損失) | △927 | 517 | +1,444 | — |

■ 2011年3月期 第2四半期 連結貸借対照表

- ・売掛金残高の増加影響により、運転資金が微増。設備投資を抑えているため、固定資産は4.3%減少。
- ・借入金は約9億円削減。

| 科 目 (百万円) | 2010年3月期 (連結) | 2011年3月期 第2四半期(連結) | 対前期末比 | |
|----------------|------------------|-----------------------|-------|--------|
| | | | 増減額 | 増減率(%) |
| 流動資産 | 7,588 | 8,119 | +531 | +7.0% |
| 現金預金 | 1,329 | 1,347 | +17 | +1.4% |
| 売上債権 | 2,234 | 2,534 | +300 | +13.5% |
| 棚卸資産 | 3,928 | 4,094 | +165 | +4.2% |
| その他 | 95 | 143 | +47 | +49.3% |
| 固定資産 | 15,247 | 14,593 | △654 | △4.3% |
| 有形固定資産 | 14,147 | 13,612 | △534 | △3.8% |
| 無形固定資産 | 574 | 503 | △70 | △12.4% |
| 投資その他の資産 | 525 | 476 | △48 | △9.2% |
| 資産合計 | 22,835 | 22,712 | △122 | △0.5% |
| 流動負債 | 9,957 | 9,692 | △265 | △2.7% |
| 買掛債務 | 1,809 | 2,025 | +216 | +12.0% |
| 短期借入金 | 7,300 | 6,702 | △598 | △8.2% |
| その他 | 847 | 964 | +116 | +13.7% |
| 固定負債 | 6,995 | 6,713 | △282 | △4.0% |
| 長期借入金 | 5,406 | 5,109 | △296 | △5.5% |
| その他 | 1,589 | 1,603 | +13 | +0.9% |
| 負債合計 | 16,953 | 16,405 | △547 | △3.2% |
| 純資産合計 | 5,882 | 6,307 | +424 | +7.2% |
| 負債純資産合計 | 22,835 | 22,712 | △122 | △0.5% |
| 運転資金 合計 | 4,353 | 4,603 | +250 | +5.7% |
| 借入金 合計 | 12,706 | 11,812 | △894 | △7.0% |

■ 2011年3月期 第2四半期 連結キャッシュフロー計算書

- ・ 運転資金が増えたものの、利益が大幅に改善したため、営業CF増加。
- ・ 設備投資を抑え、フリー・キャッシュフローを借入金の返済へ。

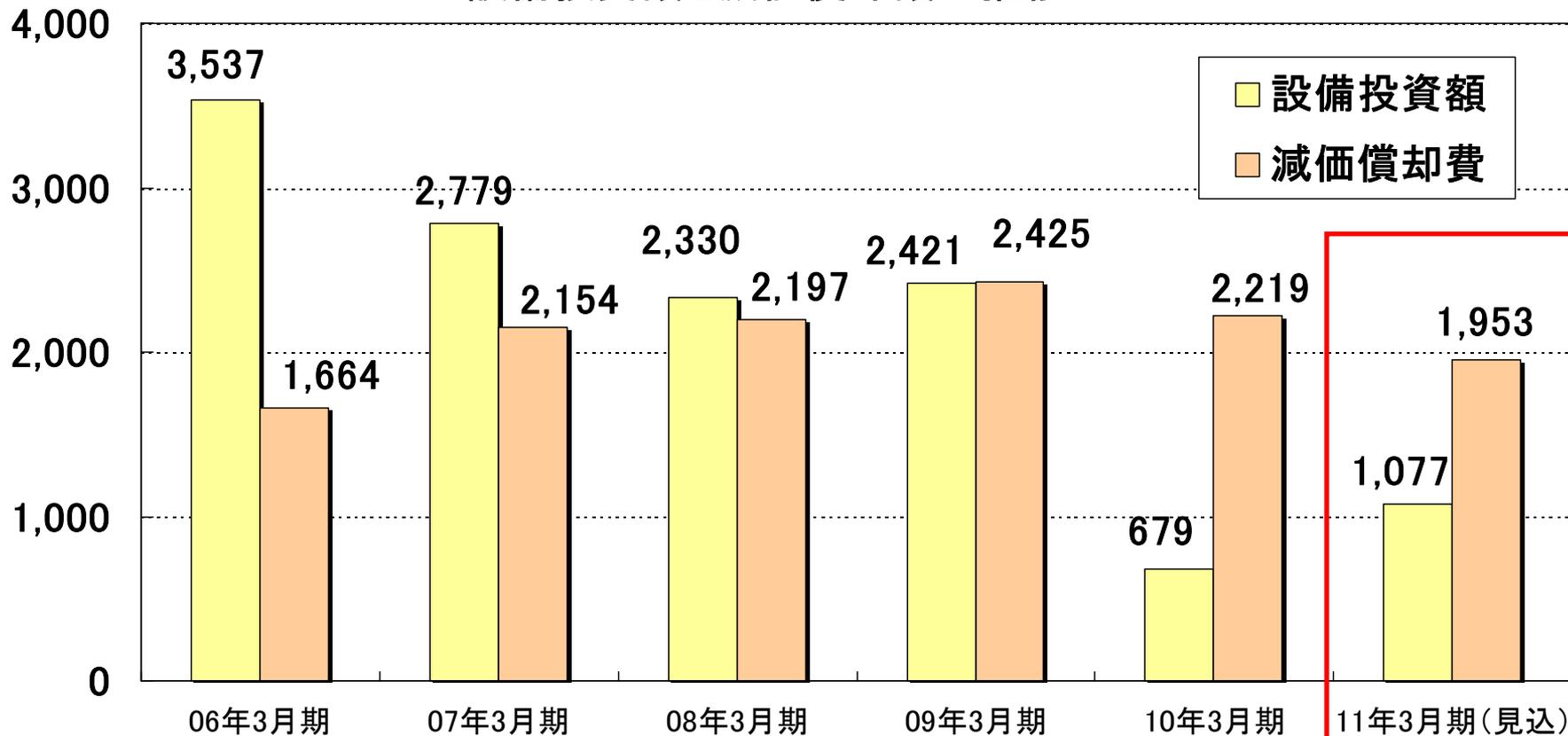
| 科 目 (百万円) | 2010年3月期 第2四半期累計(連結) | 2011年3月期 第2四半期累計(連結) | 前期比 増減額 |
|----------------|-------------------------|-------------------------|------------|
| 営業活動によるCF | 1,112 | 1,270 | 157 |
| 税金等調整前純利益(損失) | △925 | 536 | 1,462 |
| 減価償却費 | 1,098 | 909 | △189 |
| 売上債権の増減額 | △979 | △300 | 679 |
| たな卸資産の増減額 | 1,275 | △165 | △1,440 |
| 仕入債務の増減額 | 119 | 216 | 96 |
| その他 | 523 | 74 | △449 |
| 投資活動によるCF | △1,018 | △239 | 778 |
| フリー・キャッシュフロー | 93 | 1,030 | 936 |
| 財務活動によるCF | 244 | △1,000 | △1,244 |
| 現金及び現金同等物の増減 | 338 | 17 | △320 |
| 現金及び現金同等物の期末残高 | 878 | 847 | △31 |

■ 設備投資と減価償却費の計画

- ・設備投資 ……生産性向上および安全対策向け投資が中心。
- ・減価償却費 ……前期比266百万円の減少を見込む。

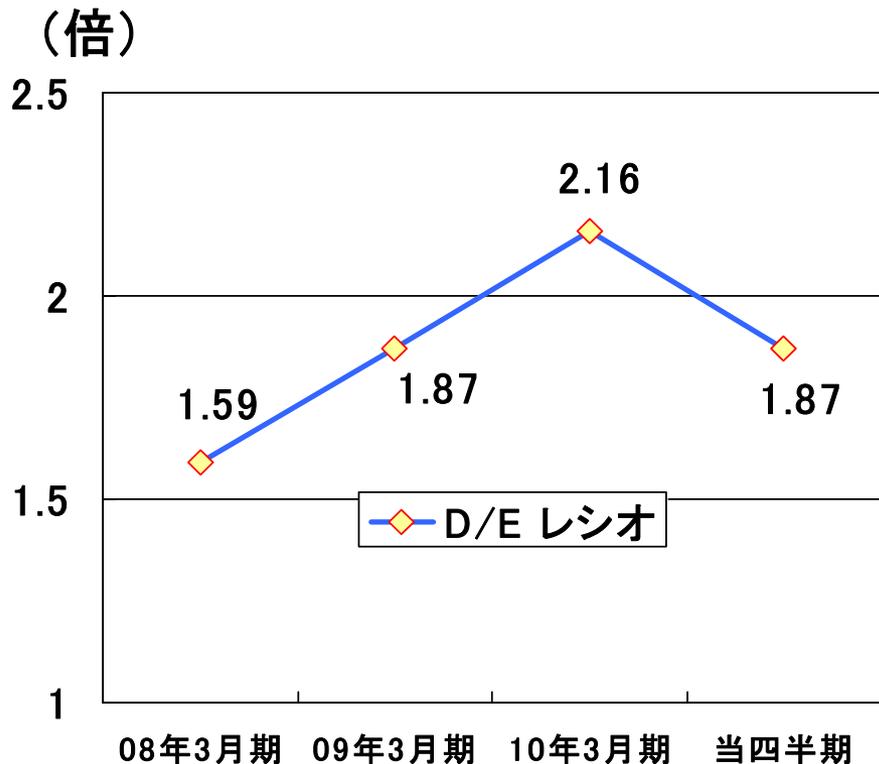
(百万円)

設備投資額と減価償却額の推移

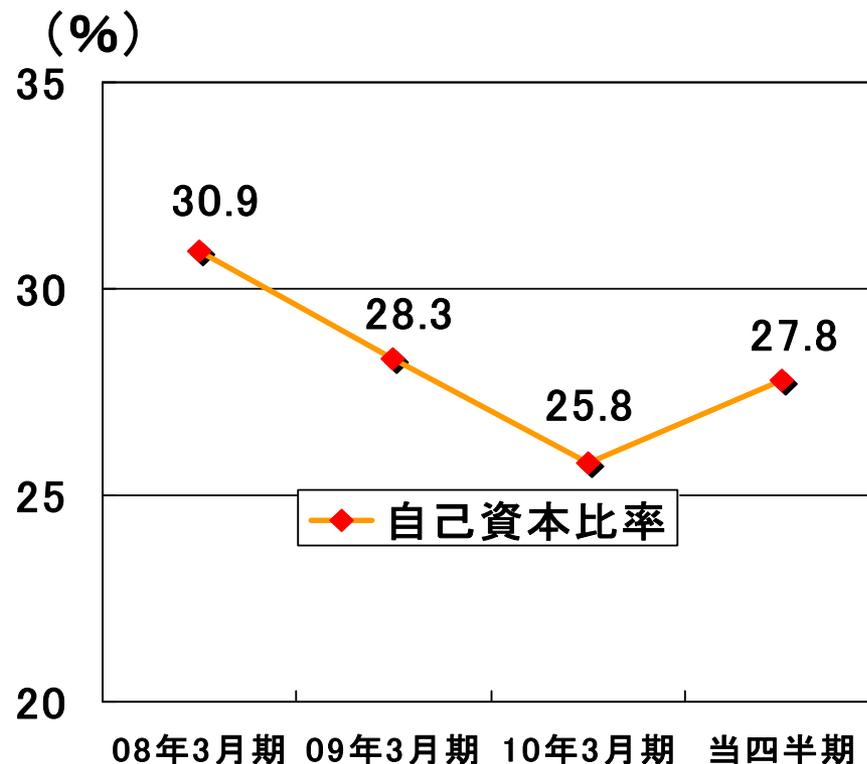


■ 「D/Eレシオ」・「自己資本比率」の推移

- ・D/Eレシオは、借入金の削減および黒字化による純資産増加により改善傾向。
- ・黒字化による自己資本の増加により、自己資本比率も改善傾向。



D/E(デッド・エクイティ)レシオ = 借入金 / 純資産



自己資本比率 = 純資産 / 総資産

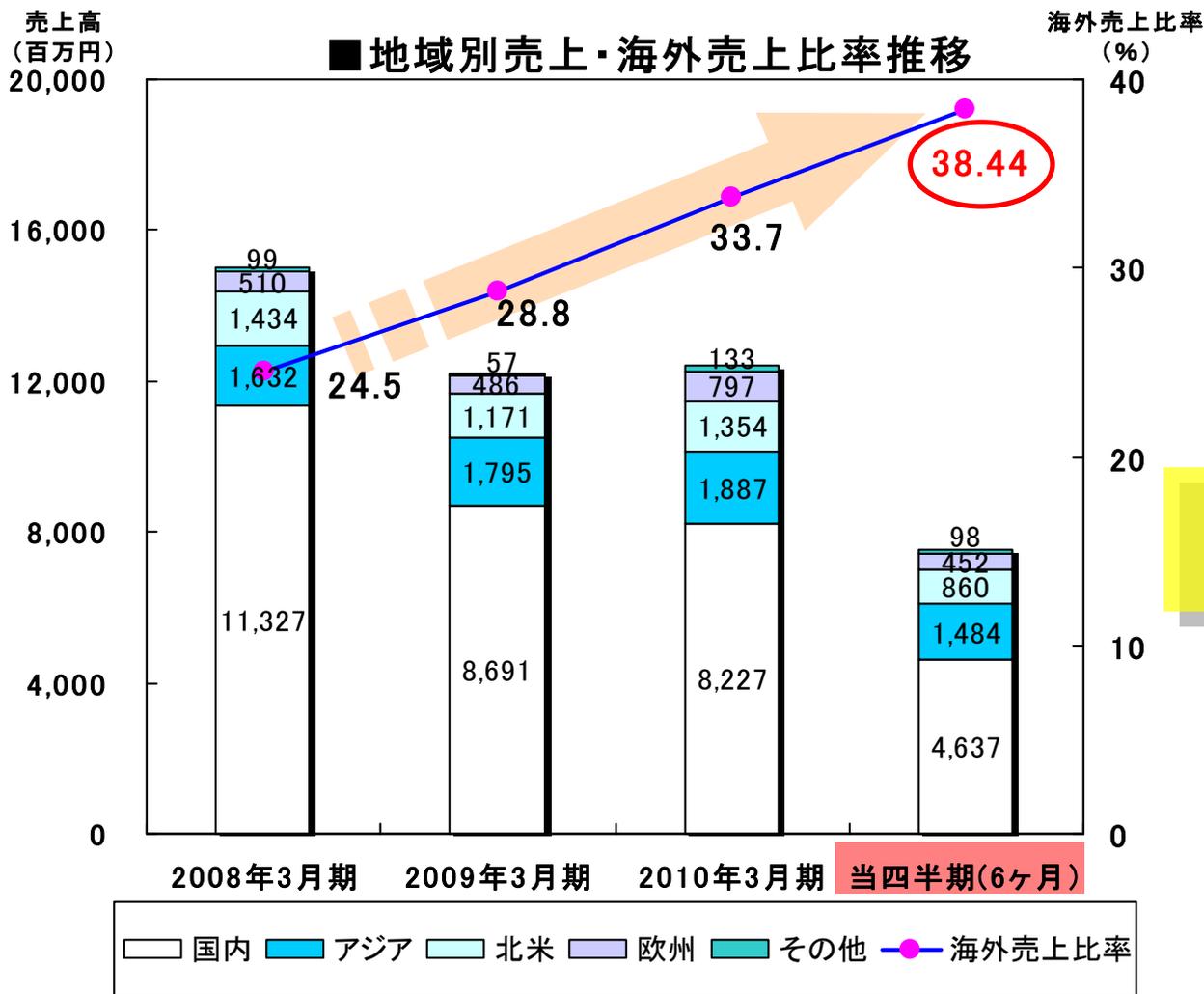
■ 2011年3月期 通期見通し

- ・期首計画値から売上高は据え置き。利益は上方修正。
- ・下期は為替レートを1ドル=80円で計算。(期首計画は90円で計算。)
(参考:第2四半期実績平均レート 1ドル=89.6円)
- ・下期に液晶パネル・半導体等の在庫調整リスクを織り込む。

| 科目 | 期首計画値 (5/18発表) | 今回 修正値 | 増減 |
|-------|-------------------|-----------|------|
| 売上高 | 14,500 | 14,500 | ±0 |
| 営業利益 | 490 | 700 | +210 |
| 経常利益 | 370 | 500 | +130 |
| 当期純利益 | 370 | 500 | +130 |

2 . 今後の展望

■ 当社製品の世界市場との高い連動性

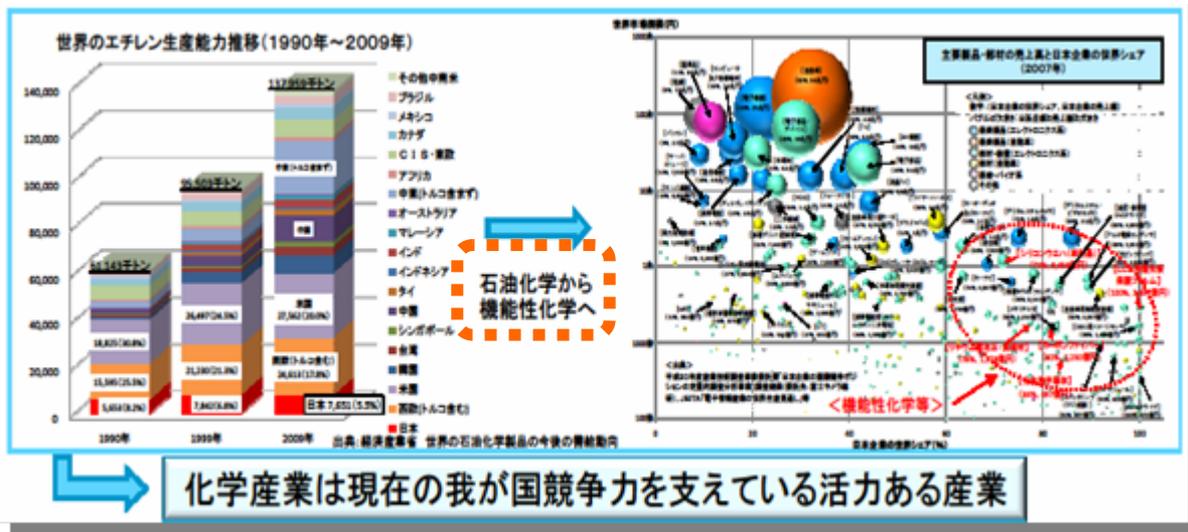


売上の約7割は海外需要に起因



※ 感光材・香料・グリーンケミカルにおける国内売上のうち、最終的に輸出される金額を推計

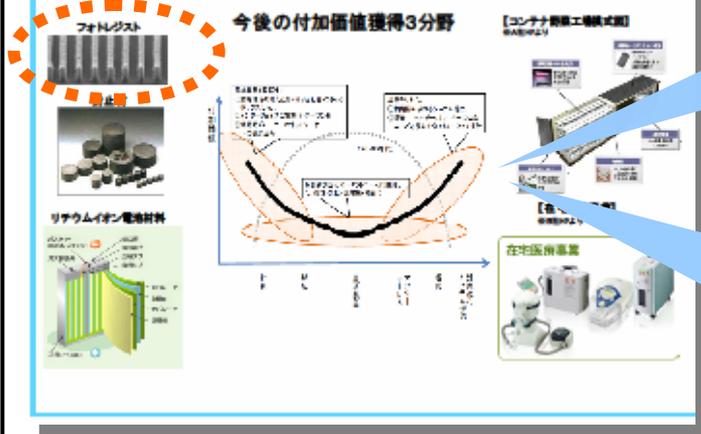
■ 当社事業の方向性 (出典: 経済産業省「化学ビジョン研究会資料」より)



日本の化学産業が向かうべき「4つの方向軸」

- ① 国際展開
- ② 高付加価値化
- サステナビリティ
- ④ 技術力の向上

2. 高付加価値化



✓ 当社施策① 「高度な摺り合せ技術」の維持・向上

- 研究開発段階から顧客企業との「技術的な摺り合せ」による参入障壁の構築
- 世界シェア上位企業との取引による成長性の高い海外市場へのアプローチ力確保

✓ 当社施策② 「成熟部門と成長部門の組合せ」

- コモディティ品から先端材料までの充実した製品ラインナップ
- 市場規模 (= 固定費回収に寄与) と高付加価値 (利益の確保) の両立
- 収益基盤の安定化による成長部門への積極的な投資資金の確保

■感光性材料事業 展望

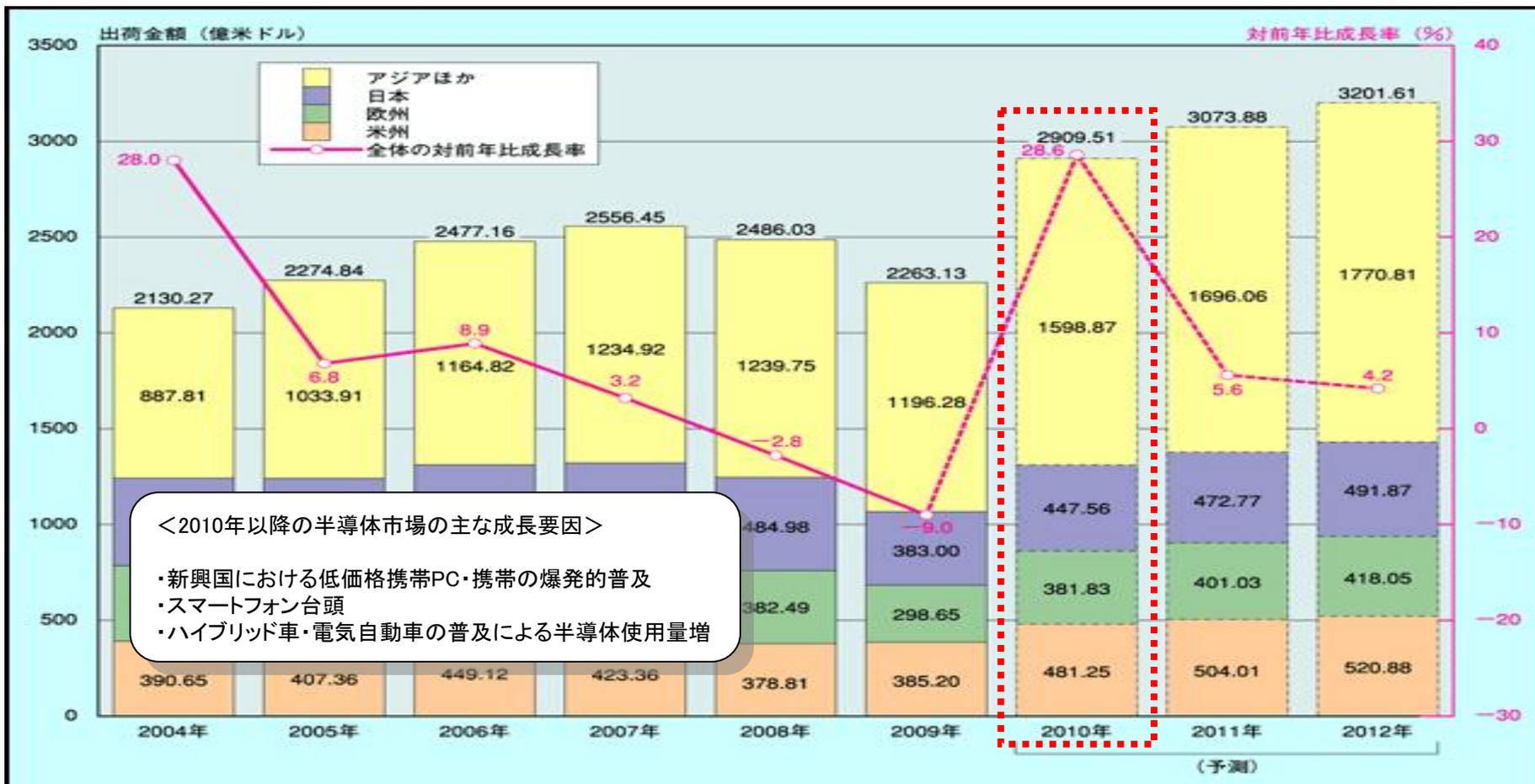
- ・ 液晶市場・半導体市場とも、リーマンショック後の落ち込みから本格回復。
- ・ 微細化された半導体のニーズが急速に高まり、レジスト市場は化学増幅系(KrF・ArF・ArF液浸等)へシフト。

| | LCDパネル用 | | 半導体用 | | | | | |
|-----|-----------------|----------------------------|--------|-------------------------|-------------------------|-------------------------|-----------------------|---------------------------|
| 光源 | g線 | i線 | g線 | i線 | KrF | ArF | ArF液浸 | EUV |
| ノード | ～2000nm | ～1000nm | ～150nm | ～90nm | ～65nm | ～45nm | ～32nm | ～16nm |
| 用途 | テレビ用パネル | 小型パネル | パワー半導体 | NANDメモリ MPU GBメモリ | NANDメモリ MPU GBメモリ | NANDメモリ 2コア GBメモリ | 4コア GBメモリ TBメモリ | 最先端メモリ・ プロセッサ |
| 市場 | 新興国の需要増 価格下落 | LTPS(PDA,カーナビ、 携帯電話)の拡大 | 緩やかに縮小 | 緩やかに拡大 延命化 | 拡大 延命化 | 拡大 | 急拡大 | プロトタイプ露光機 販売中 材料開発中 |

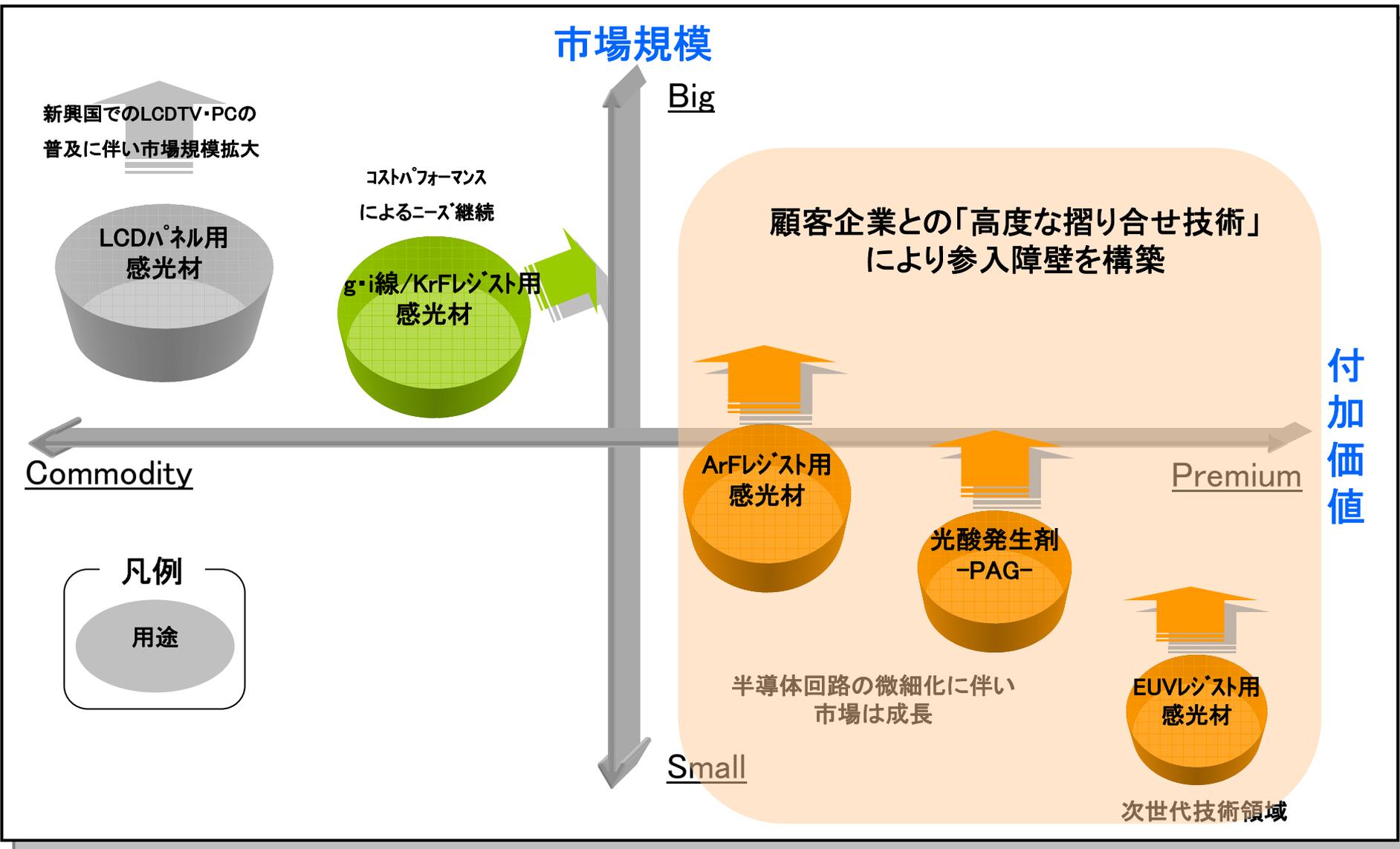
当社製品・研究開発のアプローチ範囲

半導体市場

- 2009年は、10月からプラス成長に転じたものの、通年ではリーマンショックの影響を受け、前年比▲9.0%。
- 2010年は、通年で前年比+28.6%と大幅に回復し、再び成長路線へ回帰する見込み。
- 2011年は、+5.6%の成長を継続し、2012年も+4.2%と緩やかな成長を継続する見込み。

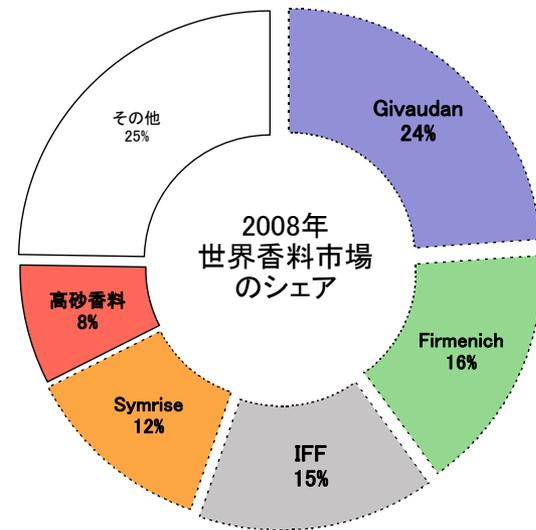
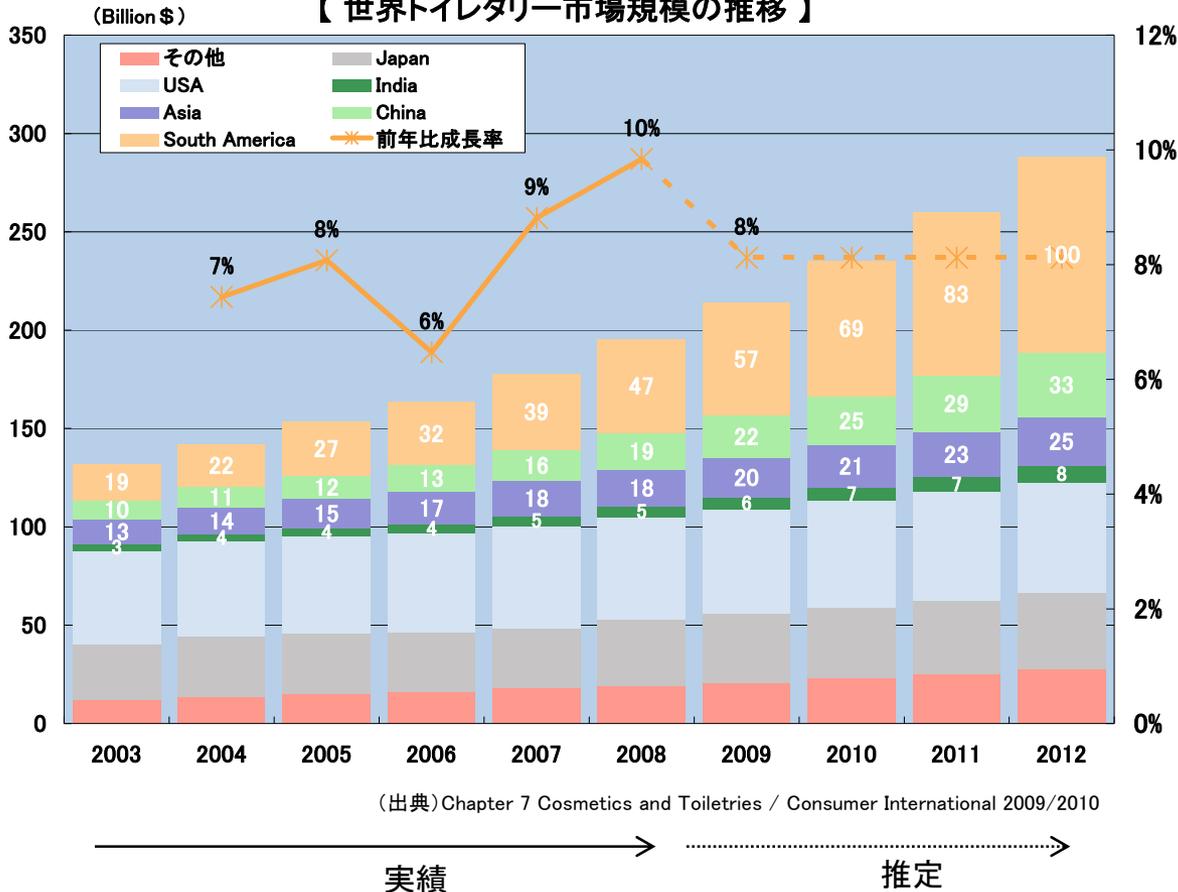


■感光材事業：感光材市場における当社ポジションイメージ



■ 香料材料部門（香料市場概要）

【世界トイレタリー市場規模の推移】



(出典) Company information

・世界香料市場は、上位5社(Givaudan・Firmenich・IFF・Symrise・高砂)で約75%を占める寡占市場。

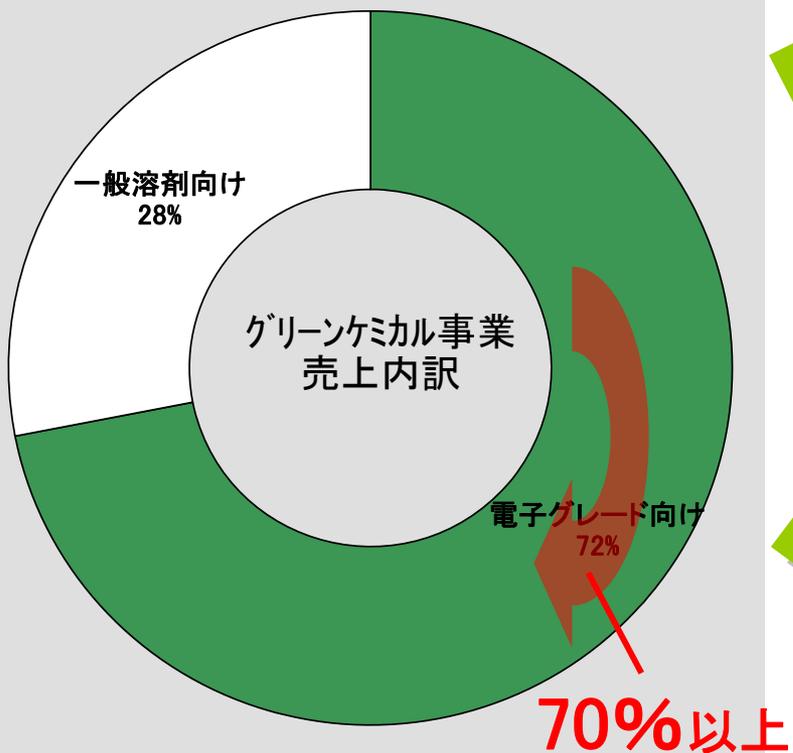
・当社の香料部門は、世界香料市場の上位会社を主要販売先とし、世界的な需要増加を取込み成長中。

・トイレタリー市場の2003～2008年の年平均成長率は8%。

・特に発展途上国市場(南アメリカ・中国・アジア・インド地域)は、経済成長に伴い2桁成長と市場が急拡大しており、トイレタリー製品に使用される香料需要(フレグランス)も増加傾向。

■ グリーンケミカル部門 展望

[電子グレード向け溶剤の売上比率(上期実績)]



市場環境

- ・電子材料業界の市況回復
- ・国内半導体メーカーの「コスト削減ニーズ」および「環境保全意識の高まり」を背景に溶剤リサイクル需要は増加傾向

当社の強み

- ・液晶、半導体製造工程向けに使用される各種溶剤ニーズに対応し、蒸留技術の高度化に対応中
- ・多成分からの単離技術を活かし、溶剤リサイクルニーズを取込

ロジスティック部門 展望（ファインケミカル向け倉庫業）

高い参入障壁と好立地条件

参入障壁

- ・東京湾岸での新規参入は、消防法規制による高いハードルがあり、困難

立地優位性

- ・東京湾岸に立地し、高速出入口にも近接
- ・好立地と抜群の交通アクセス



サービスの差別化

充実した設備

- ・多様な受入形態・保管施設を有し、充実した受払サービスを提供

高付加価値サービス

- ・ファインケミカル事業で培ったノウハウを活かし、品質管理に強み



■新規事業(エネルギー事業) 展望

電気二重層キャパシタ向け電解液

用途

- 《現在の用途》
 - ・瞬時電圧低下防止装置
 - ・エレベーター、建機
- 《将来に期待される用途》
 - ・ハイブリッド(電気)自動車
 - ・スマートグリッド関連製品

研究開発

- ・顧客ニーズに応じたきめ細やかな研究開発体制
- ・継続的営業活動により、顧客認証を取得済
- ・量産体制を確保し、商業化フェーズへ移行

市場動向

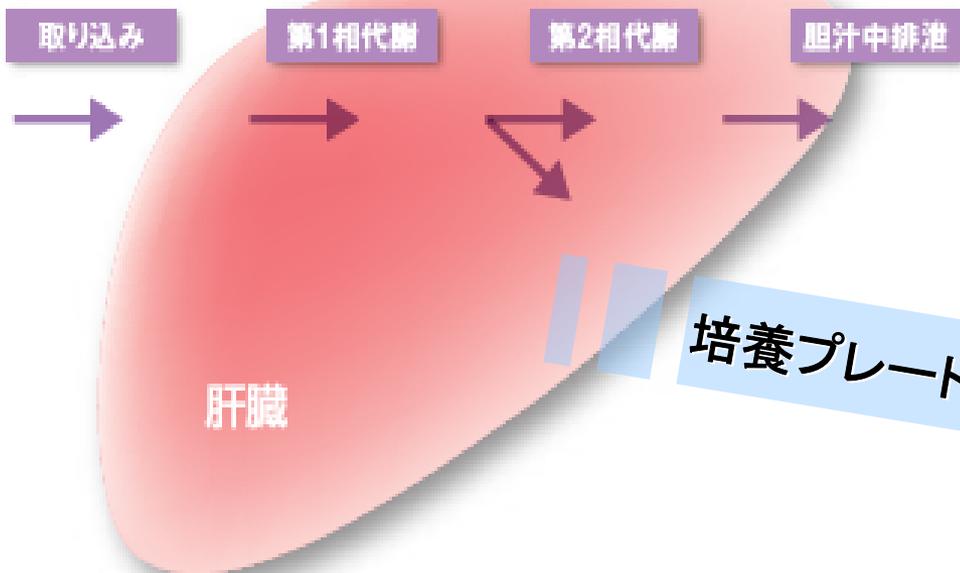
- ・金融危機の影響による設備投資需要減退からの需要回復待ち
- ・新エネルギーの普及・拡大に伴う需要増加に期待

トランスパレント社 展望

- ・ 次世代型ヒト肝細胞の3D培養キット「Cell-able」(セルエイブル) のマーケティングを日本・米国において実施中。
- ・ ヒトの肝臓機能に対する評価をin vitro(=人工的に作られた環境)で可能とし、新薬開発時の効率化とコスト削減に寄与。
- ・ (補足)前年度(2010年3月期)より、トランスパレント社を連結決算へ組み入れ。

肝臓機能のin vitroでの再現

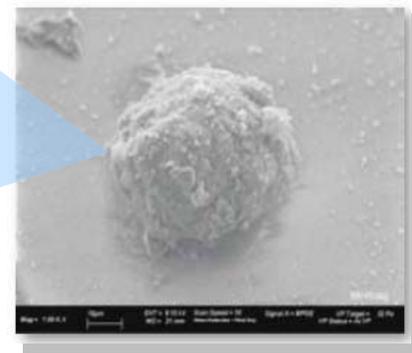
世界初となるトータルな肝機能評価を可能に



肝細胞培養キット



培養プレート上の肝臓細胞





東洋合成工業

(ご注意)

本資料の業績予想は、現時点において見積もられた見通しであり、これまでに入手可能な情報から得られた判断に基づいております。従いまして、実際の業績は、様々な要因やリスクによりこの業績予想とは大きく異なる結果となる可能性があり、いかなる確約や保証を行うものではありません。